

ホームページのご案内

当社のHPでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っております。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひアクセスして下さい。

URL:<http://www.ikco.co.jp/>



株式会社アイケイコーポレーション

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエア18階
TEL03-6803-8811 FAX03-3409-5050

■本社移転に関するお知らせ

当社は2006年10月30日に本社を上記に移転いたしました。

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答下さい。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 3377



携帯電話からもアクセスできます
QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからアクセスできます。



空メールによりURL自動返信
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本冊子がお手元に到着してから約2ヶ月間(2007年1月31日まで)です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900 MAIL:info@e-kabunushi.com



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用し、大豆油を利用したソイインキを使用しています。

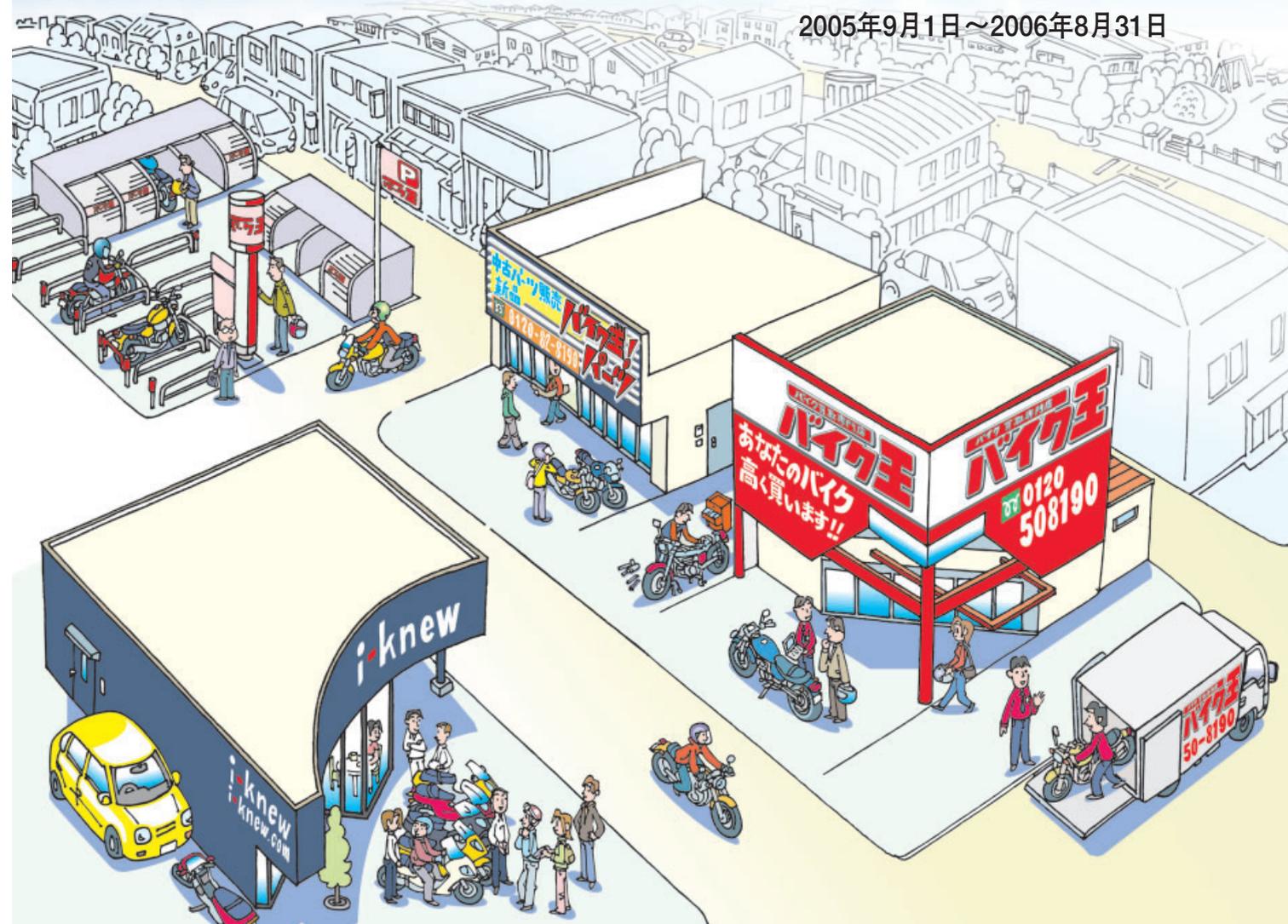


株式会社アイケイコーポレーション

株主の皆様へ

第8期 株主通信

2005年9月1日～2006年8月31日





財務ハイライト



株主の皆様へ

株主および投資家の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社グループは、リユースの視点に基づく中古オートバイ買取販売事業を展開してまいりました。設立以来、オートバイ買取市場という従来不透明であった事業分野を開拓し、買取能力の向上に努め、オートバイビジネスのノウハウを培ってまいりました。これらのノウハウを独自のITシステムに集積し、更なる買取能力の向上に努め、利便性の高い、魅力ある企業づくりを進めております。今後も価値あるオートバイの適正な買取価格設定と多店舗展開の推進等により、当社グループのコアブランドである「バイク王」の浸透を図り、より多くのお客様に満足と感動を提供してまいります。

また上記に加え、新規事業の構築・検証をすすめ、ビジョンとして掲げる『オートバイライフの総合プランナー』の実現を通して、オートバイライフを総合的にプロデュースする企業となることを目指してまいります。

当社は、2006年8月21日から東京証券取引所市場第二部に上場させていただくこととなりました。

これもひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

今後につきましても、オートバイ市場の活性化、リユース・リサイクルを通じた社会・環境問題への貢献に寄与するとともに、『オートバイライフの総合プランナー』の早期実現を通して企業価値の最大化に努めてまいります。

アイケイコーポレーションの今後に、どうぞご期待下さい。

当期の業績について

当社グループは、前期に引き続きテレビ媒体を中心とし、タレントを起用したCMによる「バイク王」の認知度向上を図る一方で、テレビ・WEB・ラジオ・雑誌等の各広告媒体のモニタリングや見直しを進め、効果的な出稿に努めてまいりました。また、店舗における地域顧客への更なる浸透と業務効率の改善を図るために、ロードサイド型店舗（RS型店舗）7店舗、戦略型小規模店舗（SS型店舗）11店舗（首都圏に5店舗、東海圏に2店舗、関西圏に4店舗）を新規出店いたしました。更に2005年9月に従来にない新しいコンセプトに基づくオートバイ小売販売店舗「i-knew」を神奈川県に新規出店し、これにより直営店舗数は55店舗（パーツ販売店1店舗を含む）となり、各種広告展開等とのシナジー効果もあって、販売台数は105,441台（前期比38.2%増）となりました。

また、オートバイ駐車場が不足している一方で、駐車違反取締り強化を柱とした改正道路交通法（2006年6月1日施行）等の法改正によるオートバイライフを取り巻く環境の変化が見込まれる中、オートバイユーザーの需要に応え、違法駐車軽減と交通渋滞緩和への貢献を通じたオートバイ業界の健全な発展を目的として、オートバイ用の駐車場事業を営む「株式会社パーク王」を設立いたしました（2006年3月1日設立、当社出資比率87.5%）。

以上の結果、当社グループ全体の当期における売上高は16,709,192千円、営業利益は1,182,437千円、経常利益は1,265,049千円、当期純利益は616,243千円となりました。



代表取締役社長
加藤 義博



次期の見通しについて

2007年8月期については、2009年8月期までの実現を企図した「バイク王100店舗計画」をはじめとする中長期的な経営戦略を遂行するため、「バイク王」に経営資源を投入し、更なる多店舗展開の推進（新規出店20店舗を予定。なお新しい店舗形態として、従来のRS型店舗とSS型店舗の両方の機能をあわせもつ中規模店舗（MS型店舗）の投入も予定しております。）と同時にこれに耐えうる社内体制の構築を進めてまいります。

また、上期における先行投資的な費用の増加にとまない、業績の下期偏重を予定しておりますが、通期においては、多数の新規出店および社内体制の見直しによる営業効率の向上によって、当期と比較し、売上高および利益の大幅な増加を見込んでおります。

2007年8月期業績予想（連結）

売上高	20,197百万円（前期比20.9%増）
経常利益	1,592百万円（前期比25.9%増）
当期純利益	890百万円（前期比44.4%増）

オートバイ買取専門店 **バイク王** —買取実績No.1—



■ サービス～高い顧客満足度を求めて～

オートバイ買取専門店「バイク王」の強みとビジネスモデル

全国の各店舗からお客様ご指定の場所・時間に専門の査定員が直行する無料出張買取。全国統一の査定基準による明瞭かつ適正な買取価格を提示。

■ 24時間365日受付

コールセンターにおける24時間365日無休の電話受付。「今すぐ」という要望にもクイックレスポンスでお応えします。

■ 無料出張買取

十分な商品知識と接客マナーの教育を受けた査定員が、パソコンを使用して査定。ご成約の場合、その場で現金決済し、買取証明書を発行します。



■ 手続き代行

名義変更、廃車手続きなどの代行、ローンの残債処理など、売却時に発生する面倒な手続きもトータルにサポートしています。

■ 店舗展開 —100店舗体制に向け、全国展開中—

「バイク王」は、「バイク王100店舗計画」を掲げ、買取店舗の全国展開を進めています。現在、出張買取の拠点としての機能のほか、視認性を高めた店舗づくりにより、信頼される買取専門店のオ

■ ロードサイド型店舗 (RS型店舗)

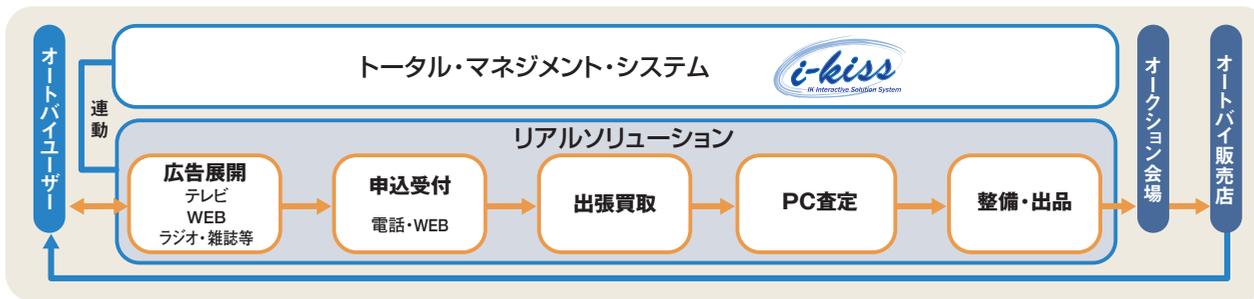
コアユーザーへのアピールを目的に主要幹線道路沿いに出店。看板等での視覚的効果を図り、新規顧客の獲得、地域顧客の開拓に努めています。



ンリーワン・ブランドとして着実に成長を遂げています。今後もオートバイ買取業界において“揺るぎ無い地位”を確立することで「中古オートバイ買取＝バイク王」の図式を周知徹底してまいります。

■ 戦略型小規模店舗 (SS型店舗)

本部広告宣伝に依存しない営業能力の開発を目的に、駅前繁華街等の生活地域に出店。当社ならびにオートバイ買取業界の認知度向上を図っています。



信頼のサービスを支える最新鋭のITシステム「i-Kiss」

全車種を取り扱い対象とした全国統一の査定基準による買取価格の算定は、当社が独自開発したトータル・マネジメント・システム「i-kiss」によって、支えられています。

i-kissは、買取業務の各オペレーションにおいて、個別に構築されてき

た各システムを強化・統合した新しい基幹システム。リアルソリューションと連動したi-kissは、お客様への適切なサービスを迅速に提供することを可能としました。



適正利益の確保と効率的な キャッシュ・フロー経営

買取後の車輛は商品価値を高めるために整備を行い、主として業者向けのオートバイオークションを介して販売します。これにより商品の在庫期間は短縮され、保管に要する人員・スペースの確保等にかかるコストは大幅に抑制されています。そし

て換金率の高さからくる資金効率の向上等が図られ、買取価格の設定もオークション相場と連動させることも可能になり、適正利益の確保とより効率的なキャッシュ・フロー経営を実現しています。

■ プロモーション展開

—積極的かつ効果的な広告宣伝によりブランド認知度を向上—

当社では、早くからテレビ・WEB・ラジオ・雑誌などを活用した広告宣伝活動を展開しています。また、広告の費用対効果を測定する独自のシステムを開発し、継続的なモニタリングと多面的な分析を行い、分析結果を広告出稿、各種キャンペーンやイベント等の企画を連動させたメディアミックスに活用しています。

■ 紙媒体

オートバイ専門誌をはじめ、雑誌・新聞などにおいて、マーケティングデータに基づき、ユーザーのニーズに合わせた展開を行っています。

■ 電波媒体

テレビCM、ラジオCMでは、「親しみやすさ」、「安心感」を打ち出すことで、幅広い顧客層をターゲットとし、レスポンスを増幅させる戦略をとっています。

■ WEB媒体

買取販売事業のコアサイトとして「バイク王」のWEBサイトを開設。また潜在顧客開拓を目的としたコミュニティサイトも開設し、ユーザーに向けて当社事業の存在をアピールするとともに、ユーザー動向を察知するツールとして活用しています。

■ イベント

コアユーザーが多く集う環境下において、当社事業の積極的なアピールを実施。買取販売事業の仕組みを広く知っていただくとともに当社サービスをご利用いただける方の誘引に努めています。

充実の社員教育制度

当社は、事業拡大と成長において最も重要な経営資源は、「ヒト」であると考えています。

当社の人材教育においては、各種システムの整備と本質的な人材育成の連動により、入社後短期間にて戦力化することが可能となっており、サー

ビスの質を落とすことなく、お客様との信頼のコミュニケーションを実現しています。また、各職位・職務に応じた研修制度を設け、専門知識の習得、理念・経営目的の浸透、マネジメントスキルの向上を図っています。



オートバイライフの総合プランナー実現に向けて 新しい取り組み

取り組み ①

ライフスタイル提案型のオートバイ販売店「i-knew」

「オークションに依存しない流通モデルの構築」と「販路拡大と収益性の向上」などの目的をもって出店したオートバイ小売販売店「i-knew」。将来的には買取専門店「バイク王」に並ぶ事業の柱として成長させていきたいと考えています。また「i-knew」では、オートバイに対する新しいイメージを創出し、初心者や女性ユーザーといった新しいユーザー層の獲得とニーズの喚起を図っていくという構想も抱えています。これらの目的を実現するため、2008年8月期までをトライアル期間と位置づけ、最適な収益モデル構築のための検証活動を推進し、十分な確証を得たうえで2009年8月期から本格的な多店舗展開を推進する予定です。



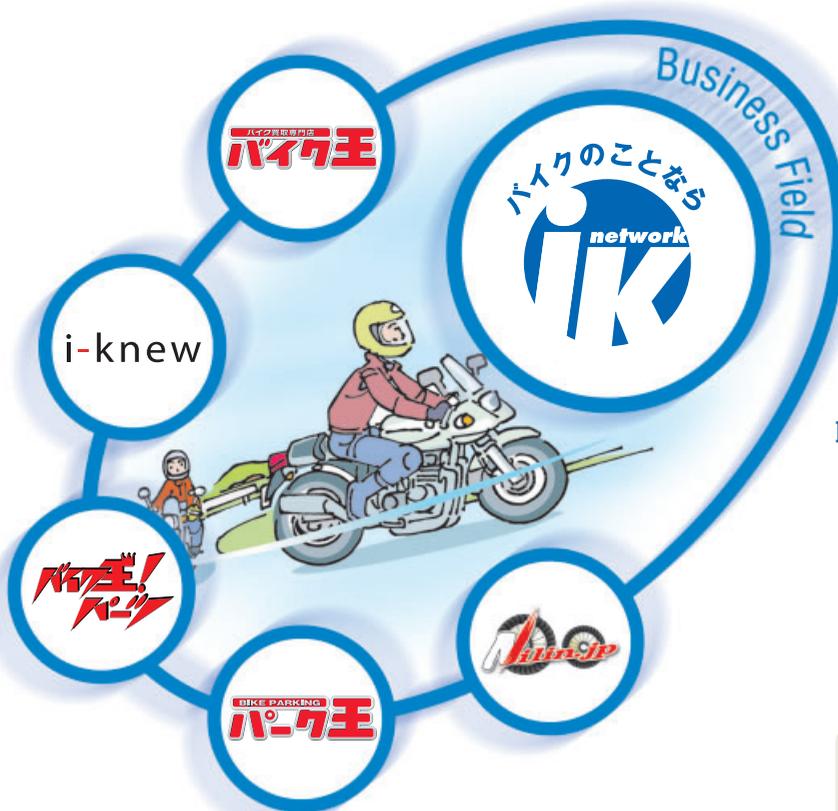
i-knew



取り組み ②

パーツ販売店「バイク王パーツ」

買取車輛の整備時に発生する良質な中古パーツを、オークションによる業者販売とオートバイユーザーへの小売販売の二つの方法で販売。最近では、新品・アウトレット商品の販売もスタートしました。今後については、多店舗展開によらず、WEB上での活動を推進し、顧客層の拡大と収益機会の拡大に努めてまいります。また、取扱商品増加に対する効率的な業務体制の確立に努めてまいります。



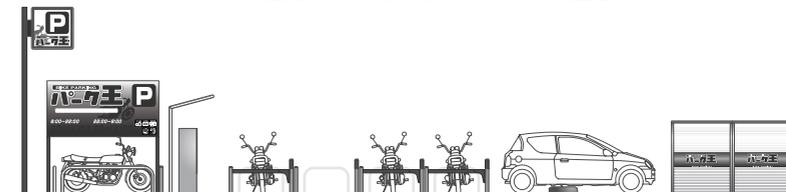
取り組み ③

BIKE PARKING パーク王



オートバイ駐車場事業「パーク王」

当社では、オートバイ駐車場事業の運営を目的に、2006年3月に子会社「株式会社パーク王」を設立。オートバイユーザーのニーズ喚起とともに積極的な事業地展開と駐車場装置・設備機器の販売を推進し、また公共性・社会貢献度の高い事業として、企業の信用度を高めてまいります。なお、新規事業地運営については、“時間貸し×月極×オートバイ×四輪車”の複数の組み合わせによる柔軟な展開によって、収益性の確保とともに認知度の向上を図ってまいります。



取り組み ④

海外市場への進出を図る「Nilin.jp(ニリン・ドット・ジェイピー)」

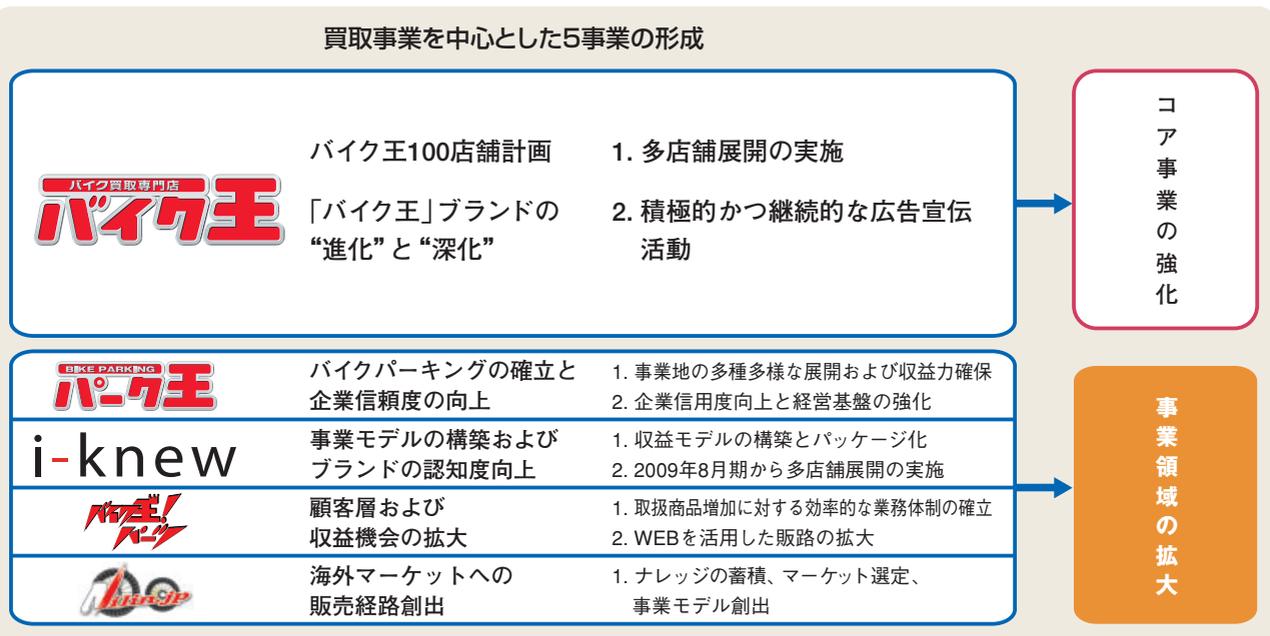


2006年7月に立ち上げました海外向けオートバイ販売ブランド「Nilin.jp」。「Nilin.jp」では、将来的な海外マーケットへの販路構築を念頭に置きつつも、当面はマーケティングリサーチ段階と位置づけ、WEB上での活動によって情報収集とナレッジの蓄積に努めたいうで、適切なマーケットの選定および収益モデルの構築に努めてまいります。





オートバイライフの総合プランナー実現に向けて 中期経営計画



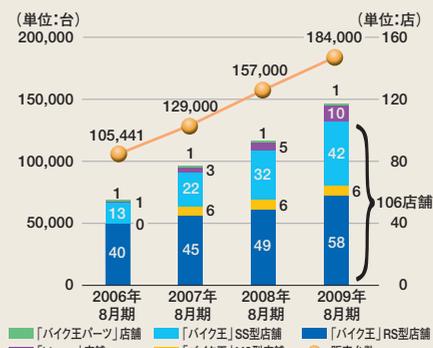
中古オートバイ買取販売事業を主たる事業と位置づけ、コアブランドである「バイク王」の展開に注力し、2009年8月期までの3カ年において「バイク王100店舗計画」の実現を図ってまいります。

また上記に加え、新規事業の構築・検証をすすめ、ビジョンとして掲げる『オートバイライフの総合プランナー』の実現を通して、オートバイライフを総合的にプロデュースする企業となることを目指してまいります。

(連結)業績予想の推移



バイク王100店舗計画



IRトピックス

東京証券取引所市場第二部へ上場いたしました

当社は、2006年8月21日、東京証券取引所市場第二部へ上場いたしました。これもひとえに株主様をはじめ、これまでお力添えいただいた多くの皆様方の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。今後も皆様方のご期待にお応えすべく、当社株式の取引機会を拡大するとともに認知度を高め、一層の信用力向上と更なる成長により企業価値の最大化に努めてまいります。今後とも倍旧のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



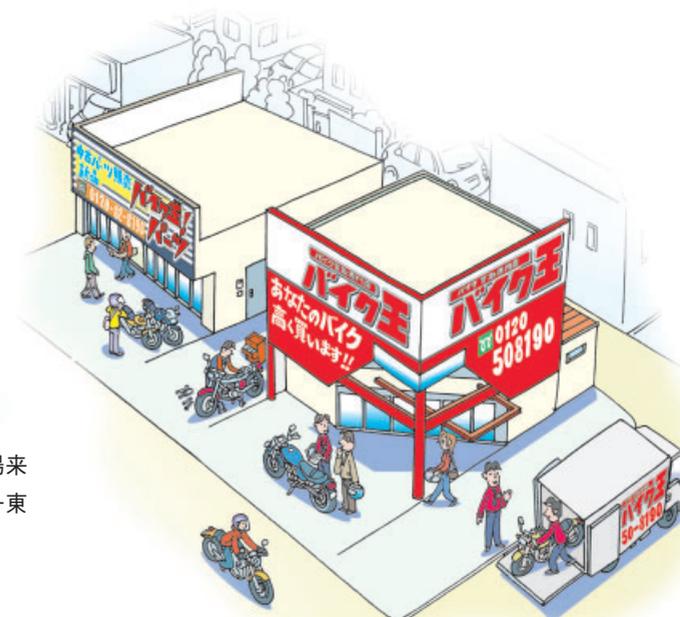
IRフェア参加について

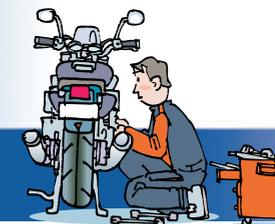
当社ではIR活動への積極的な取り組みを行っており、今後も様々なIRイベントに参加し、投資家の皆様に当社の企業情報および事業内容をお伝えしてまいります。



期末配当実施について

当社は、株主の皆様への利益還元の一環として、上場来初の配当(1株当たり期末配当600円:普通配当500円+東証二部上場記念配当100円)を実施いたします。





連結貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科目	第8期 (2006年8月31日現在)
●資産の部	
流動資産	3,373,382
現金及び預金	2,350,316
売掛金	249,158
たな卸資産	443,502
前払費用	242,270
繰延税金資産	51,392
その他	41,331
貸倒引当金	△4,586
固定資産	1,317,021
有形固定資産	567,965
建物及び構築物	372,605
車両運搬具	42,253
その他	94,876
建設仮勘定	58,230
無形固定資産	307,378
ソフトウェア	232,000
その他	75,377
投資その他の資産	441,678
繰延税金資産	43,903
敷金・保証金	382,816
その他	14,958
資産合計	4,690,404

科目	第8期 (2006年8月31日現在)
●負債の部	
流動負債	1,491,427
買掛金	61,241
1年以内返済予定の長期借入金	14,000
未払金	629,055
未払法人税等	536,505
その他	250,624
固定負債	91,961
長期借入金	46,000
その他	45,961
負債合計	1,583,389
●純資産の部	
株主資本	3,103,315
資本金	583,346
資本剰余金	602,968
利益剰余金	1,916,999
少数株主持分	3,700
純資産合計	3,107,015
負債・純資産合計	4,690,404

連結損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	第8期 (2005年9月1日から 2006年8月31日まで)
売上高	16,709,192
売上原価	8,384,562
売上総利益	8,324,629
販売費及び一般管理費	7,142,192
営業利益	1,182,437
営業外収益	109,298
営業外費用	26,687
経常利益	1,265,049
特別利益	26,920
特別損失	35,234
税金等調整前当期純利益	1,256,734
法人税、住民税及び事業税	697,090
法人税等調整額	△50,299
少数株主損失	6,299
当期純利益	616,243

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	第8期 (2005年9月1日から 2006年8月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,275,437
投資活動によるキャッシュ・フロー	△639,068
財務活動によるキャッシュ・フロー	△82,722
現金及び現金同等物の増減額	553,647
現金及び現金同等物の期首残高	1,796,668
現金及び現金同等物の期末残高	2,350,316

連結株主資本等変動計算書

第8期(2005年9月1日から2006年8月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本				少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
2005年8月31日残高	364,556	384,179	1,300,756	2,049,492	—	2,049,492
連結会計年度中の変動額						
新株の発行	218,790	218,789		437,580		437,580
当期純利益			616,243	616,243		616,243
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)				—	3,700	3,700
連結会計年度中の変動額合計	218,790	218,789	616,243	1,053,823	3,700	1,057,523
2006年8月31日残高	583,346	602,968	1,916,999	3,103,315	3,700	3,107,015

個別財務諸表



貸借対照表(要旨)

科目	第7期	第8期
	(2005年8月31日現在)	(2006年8月31日現在)
●資産の部		
流動資産	2,731,220	3,280,145
現金及び預金	1,796,668	2,296,675
売掛金	37,182	249,158
商品	607,135	412,985
貯蔵品	3,654	3,156
前払費用	235,044	233,212
繰延税金資産	32,368	51,392
その他	19,179	38,152
貸倒引当金	△13	△4,586
固定資産	828,335	1,375,847
有形固定資産	327,694	566,935
建物	217,470	365,172
構築物	2,835	7,433
車両運搬具	7,009	41,434
工具器具備品	47,116	94,664
建設仮勘定	53,262	58,230
無形固定資産	304,490	307,378
商標権	2,645	4,094
電話加入権	3,369	3,369
ソフトウェア	298,474	232,000
ソフトウェア仮勘定	—	67,912
投資その他の資産	196,150	501,534
関係会社株式	—	70,000
出資金	60	60
従業員長期貸付金	4,712	2,044
長期前払費用	9,837	12,853
繰延税金資産	12,628	43,903
敷金・保証金	168,958	372,672
貸倒引当金	△46	—
資産合計	3,559,556	4,655,993

(単位：千円)

科目	第7期	第8期
	(2005年8月31日現在)	(2006年8月31日現在)
●負債の部		
流動負債	1,447,097	1,462,639
買掛金	39,656	52,296
短期借入金	300,000	—
1年以内返済予定の長期借入金	264,000	—
未払金	378,446	624,817
未払費用	56,978	94,568
未払法人税等	347,250	536,415
未払消費税等	35,278	99,247
前受金	3,775	6,081
預り金	18,697	49,132
その他	3,013	78
固定負債	62,966	45,940
長期未払金	62,966	45,940
負債合計	1,510,063	1,508,580
●資本の部		
資本金	364,556	—
資本剰余金	384,179	—
利益剰余金	1,300,756	—
利益準備金	13,250	—
任意積立金	830,000	—
当期末処分利益	457,506	—
資本合計	2,049,492	—
負債・資本合計	3,559,556	—
●純資産の部		
株主資本	—	3,147,412
資本金	—	583,346
資本剰余金	—	602,968
利益剰余金	—	1,961,097
純資産合計	—	3,147,412
負債・純資産合計	—	4,655,993

損益計算書(要旨)

科目	第7期	第8期
	(2004年9月1日から 2005年8月31日まで)	(2005年9月1日から 2006年8月31日まで)
売上高	12,084,978	16,653,377
売上原価	6,091,190	8,334,210
売上総利益	5,993,788	8,319,167
販売費及び一般管理費	5,269,574	7,088,089
営業利益	724,213	1,231,078
営業外収益	69,245	107,854
営業外費用	42,718	26,615
経常利益	750,740	1,312,317
特別利益	35	26,920
特別損失	3,960	32,196
税引前当期純利益	746,815	1,307,041
法人税、住民税及び事業税	355,000	697,000
法人税等調整額	△22,936	△50,299
当期純利益	414,751	660,340
前期繰越利益	42,755	—
当期末処分利益	457,506	—

(単位：千円)

■貸借対照表

2006年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。(連結についても同様です)

■損益計算書

期間中における剰余金の変動は、2006年5月1日施行の会社法により新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるため、損益計算書末尾の「前期繰越利益」「当期末処分利益」の計算区分は廃止されました。(連結についても同様です)

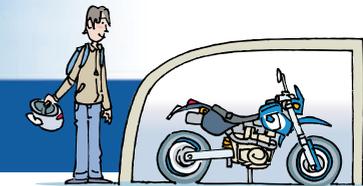
■株主資本等変動計算書

2006年5月1日施行の会社法により、「利益処分案」が廃止され、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、株主の皆様へ帰属する株主資本等について、その一会計期間における変動事由と変動額を、ご報告するために作成する計算書類です。(連結についても同様です)

株主資本等変動計算書 第8期(2005年9月1日から2006年8月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	利益剰余金合計		
2005年8月31日現在	364,556	384,179	384,179	13,250	830,000	457,506	1,300,756	2,049,492
事業年度中の変動額								
新株の発行	218,790	218,789	218,789	—	—	—	—	437,580
別途積立金の積立て	—	—	—	—	400,000	△400,000	—	—
当期純利益	—	—	—	—	—	660,340	660,340	660,340
事業年度中の変動額(純額)	218,790	218,789	218,789	—	400,000	260,340	660,340	1,097,920
2006年8月31日現在	583,346	602,968	602,968	13,250	1,230,000	717,847	1,961,097	3,147,412



会社概要 (2006年10月31日現在)

商号 株式会社アイケイコーポレーション
 本社所在地 〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエア18階
 事業内容 オートバイの新しい流通システムを提案する「バイク買取専門店」の経営
 設立 1998年9月(創業1994年9月)
 資本金 583,346,400円(2006年8月31日現在)
 従業員数 515名/平均年齢28.9歳(2006年8月31日現在)

役員 (2006年10月31日現在)

取締役会長 石川 秋彦 常勤監査役 増淵 洋吉
 代表取締役社長 加藤 義博 監査役 諏訪 浩
 取締役 松本 博幸 監査役 長坂 忠宏
 取締役 大谷 真樹

株主メモ

事業年度 9月1日から翌年8月31日まで
 定時株主総会 事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
 定時株主総会の基準日 8月31日
 剰余金の配当基準日 8月31日
 期末配当 8月31日
 中間配当 2月末日
 株主名簿管理人 〒103-0028 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒103-0028 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
 郵便物送付先 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話お問い合わせ 0120-288-324 (フリーダイヤル)
 同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
 公告方法 当社ウェブサイト (http://www.ikco.co.jp/) もしくは日本経済新聞

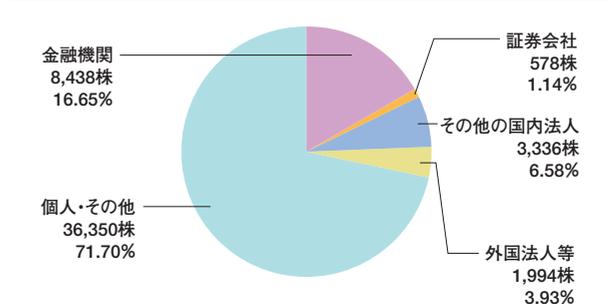
株式の状況 (2006年8月31日現在)

発行可能株式総数 160,000株
 発行済株式数 50,696株
 株主数 1,374名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数	議決権比率
石川秋彦	13,761 株	27.14 %
加藤義博	12,441	24.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,946	7.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,179	6.27
有限会社ケイ	3,000	5.92
石川ゆかり	2,660	5.25
大谷真樹	1,050	2.07
加藤信子	980	1.93
ビーエヌピー パリバセキリティーズサービス ロンドン/ジャスデック/ユーケー レジデント	691	1.36
松本博幸	600	1.18

所有者別株式分布状況



ネットワーク (2006年10月31日現在)

本社
 〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエア18階
 インフォメーションセンター
 〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町1-2 JA共済埼玉ビル2F/8F
 筑波物流センター
 〒300-2445 茨城県つくばみらい市小絹字芦戸93-1
 筑波第二物流センター
 〒305-0867 茨城県つくば市境田字長堀185-8
 さいたま物流センター
 〒338-0836 埼玉県さいたま市桜区町谷4-1-1

信越・北陸 (2店舗)

新潟店
 長野店

関西 (12店舗)

京都店
 茨木店
 堺店
 大阪店
 大阪中央店
 大阪天神橋店
 大阪梅田店
 大阪日本橋店
 大阪心斎橋アメリカ村店
 西宮店
 神戸店
 姫路店

中国 (2店舗)

岡山店
 広島店

九州 (4店舗)

北九州店
 福岡店
 熊本店
 鹿児島店

四国 (1店舗)

松山店

沖縄 (1店舗)

沖縄那覇店

北海道 (1店舗)

札幌店

東北 (2店舗)

盛岡店
 仙台店

関東 (25店舗)

太田店 新宿大ガード西口店
 水戸店 荻窪店
 所沢店 下北沢店
 さいたま店 自由が丘店
 越谷店 府中店
 千葉店 八王子店
 市川店 川崎店
 松戸店 横浜桜木町店
 亀戸店 青葉店
 池袋店 東神奈川店
 神田店 戸塚店
 綾瀬店
 一宮店
 三重店

「バイク王パーツ」板橋店※

「i-knew」相模原店※

※以外の各店舗については、全て「バイク王」となっております。